SEQUIMINI ME

セクイミニメ

No.40

SPRING 2011

桃山学院大学チャペル・ニュース

目　　次

巻頭言「良き出会い」…… チャプレン　松平　功 …… 1
聖書の花園（23）「ヒソプ ― 清め草」
…… 金城盛紀（神戸女学院大学名誉教授） …… 2
先輩からの便り「それでも人生は面白い」 …… 第６期生・齋藤　壹 …… 4
～ オルガン講習・感想文 ～
（1）「21 歳にして初めてのパイプオルガン」
…… 経営学　４年生　尾古沙緒里 …… 6
（2）「何事にも諦めない！いろんなことにチャレンジする！」
…… 法学部　４年　久保志都代 …… 7
（3）「試行錯誤する練習が楽しかった」
…… 国際教養学部　４年生　鳥羽　志門 …… 7
（4）「パイプオルガン講習を受講して」
…… 国際教養学部　４年生　内門　夏子 …… 8
（5）「オルガン講習の感想と今後の抱負」
…… 法学部　４年生　東　　宙輝 …… 8
（6）「楽しかったパイプオルガン♪」
…… 社会学部　４年生　藤原佐希恵 …… 9
（7）「楽しみで仕方なかった練習」
…… 経営学部　４年生　寺内　千佳 …… 9
（8）「貴重な経験が出来た、パイプオルガン講習」
…… 法学部　３年生　吉内　隆弥 …… 10
（9）「パイプオルガンの演奏で初めての感覚を体験」
…… 経済学部　２年生　嶋本　雄介 …… 10
2010 年度チャペル献金報告 …… 11
〈キリスト教センター関連等諸行事〉（2011 年１月～ 2011 年３月） …… 12

聖書の言葉

「たゆまず善を行いましょう。
飽きずに励んでいれば時が来て実を刈り取ることになります。」
（ガラテヤの信徒への手紙６：９）

表　紙

パイプオルガン、桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）内

撮影：学校法人桃山学院

「良き出会い」

チャプレン（大学付牧師） **松平　功**

「アダムの人生とわたしたちの関係は、わたしにとって真実で変わらぬ贈り物であった。…アダムはわたしに帰属感を与えてくれたのだ。彼のおかげで、わたしは自分が身体的存在であるという真理に根を下ろし、自分の共同体にしっかり身を落ち着け、さらには共同生活における神の現臨を深く体験することができたのである」。（ヘンリ･J･M･ナウエン著、宮本 憲訳『アダム　神の愛する子』pp.153-154 より）

暖かい春の到来とともに新年度が始まりました。新入生にとっては、初めての大学生活ですので期待に胸をふくらませておられることでしょう。在学生も新入生も、意気揚々と新しいスタートを切っていただきたいと思います。

さて、冒頭でヘンリ・ナウエンの文章を紹介させていただきました。彼は著名なカトリック司祭の一人であり、またノートルダム大学、エール大学、ハーバード大学で長年教鞭を執った優秀な教育者でもありました。その後、カナダのトロントにある知的障碍者共同体「ラルシュ・ブレイク」に移り、障碍者のアダムたちと共同生活に入り、1996 年に 64 歳で没するまで、晩年の十年を共同体のチャプレンとして過ごしました。

ナウエンの著した『アダム　神の愛する子』には、彼が共同体「ラルシュ・ブレイク」で重度の障碍を持つアダムと、親密な介護を通して深い人間関係を築き上げた出会いが記されてあります。執筆後ナウエンは故郷のオランダで急逝し、この著書が彼の最後の作品となります。この本を一読すると、彼はアダムとの出会いを通して、多面的な霊性を養っていったことが読み取れます。彼は非常に優秀な人間でしたが、その優秀さは単に勉学という面だけではなく、人々との「良き出会い」を通して更に自分自身を見つめながら成長し、他者に対する理解を深めていったところにあります。

わたし達にとっても、「良き出会い」は人を成長させるのです。聖書に「心の中で知恵の道を思い巡らし、知恵の秘密を深く考える人は、幸いだ（シラ書 14:21、集会の書）」とあります。その知恵の秘密の一つが「良き出会い」なのではないでしょうか。特に、ナウエンの場合、「良き出会い」による内面の成長は、キリスト教精神に裏打ちされた豊かな人間性によるものであると思います。

専門的な学問を学び、身につけることはもちろん重要なことですが、キリスト教精神を教育の土台とする桃山学院大学ならではのキャンパスライフの中で、「良き出会い」を通して、これまで気づかなかったような自分自身を再発見してほしいと思います。また、大学生活の中で様々な事柄に触れ、見つめ、考え、行動するのは必要なことですが、時には立ち止まって瞑想することも心の大きな成長につながるかもしれません。そういう意味も込めて、キャンパス中央に位置する大学チャペル（聖救主礼拝堂）を訪れてみてください。新しい気づきにつながる空間や「良い出会い」が待っていることでしょう。

聖書の花園

23

ヒソプ ── 清め草

金城盛紀（当大学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授）

聖書で「ヒソプ」と訳されている植物はマヨラナ・シリアカ（Syrian hyssop, *Majorana syriaca* 異学名では *Origanum syriaca*）である。シソ科ハナハッカ属で英語訳の聖書では hyssop となり，一般には Syrian hyssop とも呼ばれる。マヨラナ・シリアカは、欧米でハーブとして人気のあるヒソップ（Hyssop, *Hyssopus officinalis*）と類縁ではあるが、別物である。両者はこのように日本語や英語では同名で知られていて、しばしば混同されてきている。その上に、ハーブとして親しまれてきたヒソップには、やはり聖書のヒソプと類縁のマヨラナ（Sweet marjoram, *Origanum mayorana*）やオレガノ（Common marjoram, *O.vulgare*）もあり、両種ともハナハッカとも呼ばれて、聖書のヒソプと混同され、ややこしい。

ヒソプ（マヨラナ・シリアカ）は聖地の岩地や砂地など乾燥した所に生育する高さ 40 ～ 100cm ぐらいになる多年草本である。枝の上に白い花が群がって咲く。現在も過越祭に用いられている。書物では低木とされることも多い。

ハーブで有名なヒソップは本来イスラエルには生えていなかった。

過越祭に一役

「さあ、家族ごとに羊を取り、過越しの犠牲を賭りなさい。そして、一束のヒソプを取り、鉢の中の血に浸し、鴨居と入口の二本の柱に鉢の中の血を塗りなさい。」

（出エジプト記 12：21 ─ 22）

主がモーセとアロンに命じた過越の準備をする指示を、モーセがイスラエルの長老たちに命じるくだりである。イスラエルの民は命じられたとおりに行って、神はエジプト人の初子を殺したが、イスラエル人を過ぎ越し、解放した。神が過ぎ越す家のしるしをつける道具として、ヒソプは一つの役目を果たした。鴨居と柱に羊の血を塗るはけとして使われた。

過越祭は、エジプトの奴隷であったイスラエル人が解放された歴史を記念するユダヤ三大祭りの一つとなり、現在も、イスラエル共和国の最大の祭りである。主の晩餐は過越祭の食事として行われた（マルコ 14：12、並行記事）。

清めの儀式にも

ヒソプには不思議な力があると信じられていたようである。重い皮膚病を患った人が清められる儀式にもヒソプは用いられた。なお、新共同訳で「重い皮膚病」と和訳されている病名は、英語版の欽定訳や新改訂標準訳では「らい病（ハンセン病）」となっている。

祭司は清めの儀式をするため、その人に命じて、生きている清い鳥二羽と、杉の枝、緋糸、ヒソプの枝を用意させる。次に、祭司は新鮮な水を満たした土器の上で鳥の一羽を殺すように命じる。それから、杉の枝、緋糸、ヒソプおよび生きているもう一羽の鳥を取り、さきに新鮮な水の上で殺された鳥の血に浸してから、清めの儀式を受ける者に七度振りかけて清める。（レビ記 14：4 － 7）

ヒソプも杉の枝も、双方とも芳香があり清め

る力があると信じられていた。「生きている鳥は野に放つ」と続くから、汚れはその鳥が持ち去ると理解されようか。悪性のかびで家屋が汚れた場合にも、かびを除去してから家屋の汚れを清めるためにも杉の枝やヒソプは必要とされた（同 49 － 52）。

主がモーセとアロンに与えた罪や汚れを清める儀式にも、ヒソプは次のように登場する。

> 祭司は、杉の枝、ヒソプ、緋糸を取って、雌牛を焼いている火の中に投げ込む。
> （民数記 19：6）
>
> 身の清い人がヒソプを取ってその水に浸し、天幕とすべての容器およびそこにいた人々に振りかける。（同 18 節）

焼かれた雌牛の灰は、身の清い人によって集められ、「イスラエルの人々の共同体のために罪を清める水を作るために保存される」と説明されている（同 9 節）。水を振りかけるのにもヒソプが使われるのは、この植物の表面は毛が多いので液体をよく含むから、という聖書学者の説明がある（現代聖書注解）。たくさんある多毛性の植物のなかからヒソプが特定されているのは、やはり、ヒソプ特有の清め効力も与っているであろう。

ここまで見てくれば、詩篇 51 章 9 節の詞章はわかりやすくなるであろうか。祭りや祭式で清める道具として用いられるヒソプが、ここでは、儀式的行為の道具ではなく、罪を払う隠喩的表現になる。

> ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください。わたしが清くなるように。（詩篇 51：9）
>
> 人間はすべて罪を負う。個人として、集団として。しかし、「打ち砕かれ悔いる心を」神は侮らない（同 19 節）。神は「清い心を創造」する（同 12 節）。

イエスの最後にも

> 人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。（ヨハネ 19：29 － 30）

マタイ（27：48）とマルコ（15：34）では酸いぶどう酒（これは「酢」vinegar の誤訳か）を含ませたスポンジを付けたのは葦の棒であって、ヒソプではない。十字架上のイエスの口に差し出すにはヒソプの茎は柔らかく短すぎる、という意見もある。「投げ槍」の誤訳とする主張もある。ヒソプが用いられたとして受け入れる場合にも、過越祭で用いられるヒソプのシンボリズムをここに関連づけるか否か、意見は分かれている。象徴としてヒソプを受け入れる解釈によれば、イエスの死は過越しの祭りの羊のように、世の罪を清めるということを示す、とする。

イエスの最後については、葦かヒソプの問題よりはもっと重要な相違点がある。ヨハネによる福音書では、イエスは死を、「成し遂げられた」、神の業を完成したという確信のうちに迎える。マタイ・マルコに記されているイエスの臨終の叫び「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」とは大きな違いである。

先輩からの便り

「それでも人生は面白い」

第６期生　齊藤（さいとう）　壹（はじめ）

（日本聖公会大阪教区司祭、本学院評議員、
本学合気道部師範、合気道７段）

多用な日々を生かされて

私は本学64Eの卒業生です（６期生）。本学と深いつながりのある日本聖公会の司祭で、現在は焼肉の街・鶴橋にある『大阪城南キリスト教会』（天王寺区東上町）と、近鉄布施、地下鉄千日前線・小路の近くにある『聖ガブリエル教会』の牧師を兼務し、付設されている『博愛社こひつじ乳児保育園』チャプレン、更にお産では名の知れた『聖バルナバ病院』（天王寺区細工谷）の非常勤チャプレンもしています。

人手不足ゆえの多用な日々ですが、豊かな出会いをいただいています。これを読まれる皆さんも教会においでになりませんか。そして牧師になる人が出てくれば嬉しいことですが‥。人知れぬ苦労もありますが、有難い働きをさせていただいていると感じています。

私は学生時代には合気道部に所属し、現在は合気道部師範として関わり、大阪城南キリスト教会で毎週水曜夜に「合気道教室」を主宰しています。これが私の心身のバランスを保ってくれています。実は10年前まで本学のチャプレンとして６年間働いていました。つい先日、聖バルナバ病院で、「誕生感謝と幼児祝福」の祈りをしてほしいとおいでになった方が、アーチェリー部のＯＧで、私の顔を覚えていて下さり嬉しいことでした。

創部50周年の記念写真

どうして牧師に？

経済学部の卒業生がなぜ牧師にと思われる方は多いことでしょう。限りある紙面ですが精一杯お話をしましょう。

私は兵庫県の芦屋市で生まれ育ちました。関西の人にそれを言うと「ほー！」という反応が返ってきます。お金持ちを想像されるようです。

実家で私を産んだ母は、事情があったのでしょう、夫の元には戻らず、後に協議離婚をしています。実はこういうことを桃大入学時、育英会奨学金申込手続きの際に知ることになりました。「お父さんは死んだ」と聞かされ、父の写真も見たことなく育っていた私に、謄本を見た窓口の職員さんの一言「ああ、君のとこは離婚か」で、謎が解けました。

聖書に書かれている貧しい大工ヨセフの子イエスならぬ、私は貧しい大工の孫として育ちました。可愛がられて育てられたことは有難いことでした。仏壇も神棚もある家でしたが、小学校３年の頃、テレビもなかった時代の楽しみ・紙芝居を、その日は無料で見せてくれるというので見に行った。それは教会の日曜学校の路傍伝道だったのです。ただほど怖いものはないですね。しかしこれがキリスト教との出会いとなり、中学３年で洗礼を受けました。

その後志望大学の受験に全て失敗し、浪人はさせてもらえず、２次試験で拾っていただいたのが本学です。牧師になるつもりは爪の先ほども考えたことがありません。創立６年目の、今とは比べものにならない小さな大学でしたが、素晴らしい先生がたや友人に出会えました。

それが大学３年の頃、所属教会の牧師さんから「大学を卒業したら神学校へ進んで牧師にならないか」と誘われ、その気になったのです。

しかし、裕福でない中を私学に進ませた親たちからの猛反対に遭い、断念、就職しました。幸いに？とても嫌な上司がいて早々に離職、合気道の師匠の誘いを受けて内弟子をしましたが、再決断をして神学校へ進みました。私の親離れだったと言えるでしょう。

人間万事塞翁が馬（にんげんばんじさいおうがうま）

神学校での３年の学びを終えて派遣された最初の赴任地は、大阪市淀川区にある児童養護施設「博愛社」の敷地内にある聖贖主教会（せいあがないぬしきょうかい）でした。

私の生い立ちなどとは比べものにならない過酷な状況を生きてきた子どもたちとの出会いが私を成長させてくれました。施設に暮らす子どもたちの人権を守るため、苦闘の時期も過ごしましたが、神様のお守りとお導きによって、新たな展開につなげることができました。

そこに15年在任の後、豊中市緑丘にある「東豊中聖ミカエル教会へ」転任しました。閉園しようかという小さな保育園が付設されていましたが、そこに８年踏ん張り、その後は後任者が頑張ってくださって今は認可保育園になっています。

更に本学に転任となり、インドネシア・ワークキャンプをはじめとして豊かな出会いをいただきました。生きていれば辛いこともありますが、神様に導かれ“それでも人生は面白い”と感じる65歳を生きています。

オルガン講習・感想文

修了証を持って記念撮影。
左端がキリスト教センター長の島田勝正教授、右端が松原晴美先生。

21歳にして初めてのパイプオルガン

経営学部4年生　尾古沙緒里

「とっても楽しかったです!」オルガン講習はこの一言に尽きます。

私は、大学に入る前から入学案内でチャペルのパイプオルガンの存在は知っていて興味津々でした。でも1回生の時も2回生の時も踏ん切りがつかず、3回生になってやっと講習の申し込みをしました。

保育園の頃から高校1年生までピアノ教室に通い、それ以降もたまに気が向けばピアノに触っていたので、パイプオルガンも同じ鍵盤楽器なら「へっちゃら」だと油断していました。でも、手は手、足は足で全く別のことをやっているわけで、実際弾いてみると自分が考えるように両手両足が上手く動かせなくて難しかったです。これまでパイプオルガンの講習を受けてこられた先輩たちも「SEQUIMINI ME」で同じ様に仰っていたのですが、自分もまさにそれでした。それから、私は持続音が苦手でした。どのタイミングで鍵盤から指を離していいのか…でも、負けず嫌いの性格もあって講習の時間以外の練習はかなり真剣でした。その分、弾けるようになると自分でも嬉しいし、先生も沢山の曲を紹介してくださるので、色々な曲に挑戦できるワクワク感はひとしおでした。毎週水曜日はオルガン講習30分のために学校に行っていたと言っても過言ではないくらいです。

4月から毎週30分間の短い時間でしたが、丁寧に優しくご指導頂いた松原先生には感謝しています。本当にありがとうございました。

私はこれまで、高校の部活なども含めて色々な楽器に触れてきましたが、パイプオルガンという楽器は21歳にして初めてでした。簡単に見ることも触ることもできない貴重な楽器です。この「SEQUIMINI ME」をご覧になった方や、もし少しでもパイプオルガンに興味のある方がいらっしゃったら、是非チャレンジしてみてください。きっと楽しい時間を過ごすことができると思います。

何事にも諦めない！
いろんなことにチャレンジする！

法学部４年生　久保志都代

「こんな機会がないと経験できない……音楽が好きだしやってみたい！！」

私は、１年生のときから、このように思っていました。しかし、時間割りの都合上、講習を受けることができませんでした。小・中・高と吹奏楽をしていたので、音楽に触れることができないのが淋しかったのですが（諸事情により部活もできなかったので）、２年生の秋学期に『キリスト教音楽』という松原先生の講義をとったときに、以前よりオルガンが弾いてみたくてウズウズしていました。

３年生になり思いのほか時間にも余裕ができたため、オルガン講習を受けることにしました。受講するにあたって私には不安があり、それは、鍵盤に触れるのが保育所以来だということでした。しかし、その不安を消してくださったのが松原先生でした。松原先生が、「ピアノとは弾き方が違うから、あまりピアノ経験のないほうが弾きやすいかもしれない」と、言ってくださったときに、少しですが力を抜いて弾けるようになりました。

でも、そこからが大変で、両手で弾く分にはぎこちなくて、一応、弾くことはできたのですが、足の鍵盤を一緒に弾こうとするとうまくできず、片手と足だけで弾く練習をしたりしました。しかし松原先生は、挫けそうになったり、諦めてしまいそうになったりする私を、最後まで支えてくださいました。そのおかげで、12月の発表会で（途中で失敗してしまいましたが…）１曲弾けるようにまでなりました。正直、発表が終わったばかりのときは、あまりにも緊張していたため、自分の発表中の記憶があまりなかったです。

ですが、このオルガン講習は、私にとっていい経験となりました。それは、『何事にも諦めない！』『いろんなことにチャレンジする！』ということです。ぜひ、興味のある方は講習を受けてみてください。ここで終わるのは後悔すると思い、来年就活が本格的になるので、時間があるのであればもう１度講習を受けてみたいです。

最後になりましたが、松原先生、そしてキリスト教センターの方々、１年間有り難うございました。

試行錯誤する練習が楽しかった

国際教養学部４年生　鳥羽　志門

私がオルガン講習会を修了できるとは思っていませんでした。ピアノは年少の頃から弾いてみたいと思っていたのですが、どのように弾いてよいか分からず、小学校の頃もピアノの練習の時は居残りをしていたほどです。オルガン講習に参加したのは、聖歌隊で歌っているし、歌がうまくなるためには、音をちゃんと取れるようになった方が良いと思ったのがきっかけでした。それで、パイプオルガンを弾いてみたいと思ったのです。オルガンの練習は一週間に一回のペースで練習の成果を見てもらわないといけなかったので、かなり大変でしたが、両手で弾くにはどうしたらよいか、拍をどのようにとったらいいか考えて試行錯誤するのは楽しかったです。目標にしていた曲には全然届かないことを練習しているうちに知りましたが、それでも家で練習して弾けるようになりたいと思いました。残念だったのは、発表会の時に緊張して間違えてしまったことです。自分の曲を聴きながら拍をとる事を、目の前のことに集中しすぎて出来なかった。それが唯一の心残りです。今後の抱負としては毎日ちょっとでもいいから練習して目標の曲を弾けるようになる事、そのために体調を整えることです。一年間ご指導いただきありがとうございました。

パイプオルガン講習を受講して

国際教養学部４年生　内門　夏子

「桃山学院大学にはパイプオルガンがある」。このことを知っている学生は多いですが、実際に学生が弾くチャンスがあるということを知っている学生は、それほど多くないかもしれません。私は元々ピアノを練習していたこともあり、同じく鍵盤を使って演奏するパイプオルガンにはとても興味がありました。しかし、パイプオルガンを習うことが出来るところはそれほど多くはありません。春に、パイプオルガン講習生募集の張り紙を偶然見つけることができた私は、迷わず応募しました。

確かに鍵盤を弾くという点では、ピアノと同じでした。しかし、ピアノを弾きなれている人ほど違和感があるのではないかというのが、鍵盤に触れたときの第一印象でした。パイプオルガンの最大の特徴は、名前にも付いている「パイプ」です。このパイプに空気を送り込み、様々な音を奏でるのです。ピアノのように弦をハンマーで叩くのではなく、空気を送るための蓋を開閉させる。この開閉をおこなうために、何かにひっかかっているかのような、独特の重みが鍵盤にはありました。この重みが重厚な音色になるのだと感じられたとき、講座を受講することができて本当によかったと思いました。また、この講座でうれしかったのは、12月に練習の成果を披露するための「発表会」という場をいただけたことです。1年間という決められた期間の中で、自分を成長させようと強く思うことが出来ましたし、友人らに「よかった」と感想をもらうことができたので、自分の頑張りが認められたと実感することもできました。

パイプオルガンには、ピアノやその他の楽器とは違う様々な特徴があります。ですから音楽をたしなんだ事がある人でも「はじめて」の気持で学べるし、反対に楽器に触れたことが無い人でも楽しむことが出来ると思います。

一年間講師として教授してくださったチャペルのオルガニスト、松原晴美先生には、この場をおかりしてお礼申し上げます。

オルガン講習の感想と今後の抱負

法学部４年生　東　宙輝

今年１年間のオルガン講習を通して、１つの事を自分の納得いく形になるまで仕上げることの難しさを改めて学習しました。１音１音を確実に鳴らし、緊張がしながらでも聴衆に「楽しい音楽」を届けることは時間もかかりましたが、充実感のある楽しい経験でした。

ペダルの練習は通常のピアノとは異なり、また、オルガンはかなりデリケートな楽器なので正確さも大切です。でも、これはイギリス国教会の大学である、桃山学院大学だからこそ出来る貴重な体験です。

ぜひこれからもパイプオルガン講習を続けて欲しいと心から思います。

僕個人は、今後は論文や就活などで厳しい時期になりますが、今回培った「緊張があっても堂々と出来る精神」を生かしていけるように頑張りたいと思っています。大学生活の中では「音楽」に関わる授業は少なく、礼拝以外では、なかなかオルガンの音に触れ合う機会はありません。それを自分で演奏できたということは何物にも変えがたい経験でした。

自分のやりたい事を叶えるには数多くの試練が待っていると思っています。しかし、その時にはオルガンの音色を思い出すと落ち着くという人も多いです。響きのある、深い音色は落ち着くのです。チャペルは本当に貴重な空間だと改めて思いました。自分もそれに少しでも近付いたかと思っています。

「オルガンをぜひ弾きたい」、「音楽に魅力を感じている」という皆さん、ぜひ来年チャレンジしてみてください！！あきらめないことは、人にとって最大の自信になります。

楽しかったパイプオルガン♪

社会学部４年生　藤原佐希恵

私は留学に行く前の礼拝で、パイプオルガンの音色がチャペル全体に鳴り響くのを初めて聞いて、「いつか絶対弾いてみた～い!!!」と思っていました。そしてキリスト教センターに行くとタイミング良く、締め切り３日前で、パイプオルガン講習に参加できるようになりました。

ピアノを16年間習っていたから、パイプオルガンも簡単に弾けるだろうと考えていました。しかし、初めて鍵盤を触った時の新感覚に驚き、動揺を隠し切れませんでした。指やペダルの置き換え、両手と両足、全てを使って演奏……。初めは頭がこんがらがりました。しかし練習を繰り返すうちに慣れてきて、初めて弾けた「アメージンググレイス」に感動し、弾けるようになったという達成感でいっぱいになりました。

発表会の曲「Wedding March」は、１ヶ月前から練習を始めました。発表会までの練習では所々間違えたりしていましたが、当日は奇跡がおきて、ノーミスで弾くことが出来ました♡♡♡自分でもびっくりするぐらい本当に嬉しかったです!!!

オルガニストの松原先生にパイプオルガンを教えて頂いて、とても楽しくて毎週癒されていました。演奏できるようになり、大学生活で最高の思い出が出来ました!!!!　また機会があればパイプオルガン弾きたいです☆

楽しみで仕方なかった練習

経営学部４年生　寺内　千佳

２回生の時に続いて３回生でもパイプオルガンを受講することができました。２年も続けてパイプオルガンを弾くことが出来て幸せです。私がこのパイプオルガン講習のことを知ったのは、キリスト教音楽という授業を受講していた時です。授業では、松原先生がパイプオルガンを弾きすごく素敵だなと思っていたときにこの話を聞き、受けてみようと思いました。

２回目ということもあって、１回目の時に比べて難しい曲にチャレンジすることも出来ました。ただ３回生になって忙しくなり、あまり練習出来なかったのが少し悔しいです。

発表会はパッヘルベル（Pachelbel）の「カノン」という曲を演奏しました。５分位の曲で、自分の順番が回ってくるまでにすごく緊張しました。演奏中も足が震えてペダルを上手く弾くことが出来ませんでした。でも去年よりもいい演奏が出来たし、すごく楽しかったから満足です。

来年は４回生になり、もっと忙しくなるので再度受講することは難しいと思います。この２年間毎週30分の練習が、楽しみで仕方なかったです。あっという間の日々でしたが桃山学院大学でしか経験できない貴重な体験が出来て感謝でいっぱいです。

本当にありがとうございました。

貴重な経験が出来た、パイプオルガン講習

法学部　3年生　吉内　隆弥

パイプオルガン講習を受講したきっかけは、入学式の時に、チャペルで実際にパイプオルガンを聴いた事でした。パイプオルガン自体は、高校の吹奏楽部をやっていた時に何回かコンサートで聴きに行ったことがあったので初めてではありませんでしたが、やはり学校にパイプオルガンがあるのはすごい、さすがはキリスト教系の大学なんだと思いました。そして、その時にパイプオルガン講習募集の話を聞いたのです。1回生の時は落選しましたが、2回生にてようやく受講することが出来ました。

ピアノの経験があったので、オルガンもなんとかなるだろうと考えていたのですが、大違いでした。音を伸ばすペダルも無いので、音が途切れ途切れになりやすくて、途切れさせないための持続音を鳴らす為の指の置き換えが必要であったり、足にもたくさんの鍵盤があったりとなかなか難しいものでした。でもそれだけやりがいのある楽器で、毎週月曜日の30分間の練習はとても有意義なものでした。

発表会本番は、ヨハン・パッヘルベルのトッカータを弾きました。とてもダークで荘厳な雰囲気が出ているそんな曲です。久しぶりの演奏会だったので緊張するかなと思っていたのですが、不思議とそんな事もなく、むしろ落ち着いて発表会に臨むことができました。これはチャペルでの雰囲気が手伝っているのかなと感じました。2分ほどの短い曲ということもあり、あっという間に終わりました。久しぶりにもらった拍手はとても嬉しかったです。

それから発表会とは別に、小学生の前で弾く機会もありました。小学生だからやいやい騒いだりするのかなー？とか思っていたのですが、そんな事なくしっかり聴いてくれて、終わった後に「すごかったよー！」と言ってもらえてこれまた嬉しかった。

このような貴重な経験が出来たのは、松原先生やキリスト教センターの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。出来れば来年も受講したいと考えてるので、その時はまたよろしくお願いします。

パイプオルガンの演奏で初めての感覚を体験

経済学部2年生　嶋本　雄介

私がパイプオルガンの講習を知ったのは、桃山学院大学の案内を読んでいる時でした。パイプオルガンは、あまり弾く機会がないし、音楽に興味があったので受講しました。

しかし、オルガン講習の申し込みをしてみると申し込みの期限が過ぎていました。でも、定員が一人余っていたので何とか受講させていただくことができました。

オルガンを弾いてみると、ピアノとは思ったよりだいぶ違い、その上ペダルも同時に弾くので、とても苦戦すると思いました。ピアノも少ししかやったことがなかったので、楽譜もあまり読めず、思った通り一曲弾くのにとても苦戦したのを覚えています。しかし、オルガンを上手に弾きたいという気持ちがあったので何度も練習しました。

発表会で弾いたのは、「Joy to the World もろびとこぞりて」でした。弾いてみるとリズムが合わない部分があり発表会間近だったので、焦りが出て、ほぼ毎日練習するようになりました。

発表会では、思ったより落ち着いた気持ちで演奏することができました。演奏を終えた時の心境は一言でいうと気持ちが良く初めての感覚だったと思います。もし、機会があれば来年も受講してさらに上達させたいと思います。また、演奏してみたい曲もあるので発表会に弾いてみたいです。

粘り強く丁寧に教えていただいた松原先生、ありがとうございました。

2010 年度 チャペル献金収支報告（2011 年 2 月 21 日現在）

【 収入の部 】

チャペルコンサート献金

月　・　日	金　額（円）
Saturday, April 17, 2010	27,743
Saturday, May 29, 2010	26,246
Saturday, June 26, 2010	26,899
Saturday, October 23, 2010	40,461
Saturday, December 11, 2010	65,283
計	186,632

特別献金

月・日	献　　金　　者	金額（円）
2010 年　4 月 12 日	桃大生協より譲り合いリユース市頒布会の収益一部寄付	26,250
2010 年　4 月 14 日	松浦先生を送る会の余剰金　送る会	1,380
2010 年　4 月 17 日	チャペル献金（個人）	10,000
2010 年　4 月 28 日	2009 年 4 月フレッシャーズキャンプ写真余剰金　学生支援課	6,621
2010 年　5 月 26 日	桃山フェスタ 2010、5 月 23 日開催の模擬店売上金　学生支援課	30,580
2010 年　7 月 27 日	4 月 21 日～ 22 日開催のフレッシャーズキャンプ写真展の余剰金　学生支援課	780
2010 年 11 月 15 日	第 2 回キリスト教講演会献金	851
2010 年 12 月　1 日	桃山祭期間中の学生支援課によるバザー収益金	31,837
2010 年 12 月　7 日	チャペル献金（個人）	2,000
2010 年 12 月 17 日	クリスマス礼拝献金（12/16）	26,210
2010 年 12 月 24 日	国際ワークキャンプ・インドネシア預り金精算の残金を学生に返金、その剰余金	8
2011 年　1 月　6 日	留学生英語クリスマス礼拝時の献金（12/20）	432
2011 年　1 月 11 日	学生ボランティア（西沢ファーム）大学祭バザー売上金の一部寄付	1,500
	計	138,449

普通預金利息

月・日	金　額（円）
2010 年 8 月 23 日	70
2010 年 2 月 21 日	48
計	118

収 入 小 計	**325,199 円**
前年度繰越金	**355,297 円**
収 入 総 計	**680,496 円**

【 支出の部 】

Monday, April 19, 2010	残高証明発行手数料	525
	計	525

（※）クリスマス献金・手数料 内訳

献 金 送 付 先	金額（円）	手数料
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本	10,000	120
ペシャワール会	10,000	120
社会福祉法人 聖フランシスコ会 ふるさとの家	10,000	0
社団法人日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）	10,000	0
インドネシア・バリ州タバナン県ソカ村の井戸掘り（バリ教会所有の植林地）	300,000	0
計	340,000	240
合　　計	340,240	

支 出 総 計	**340,765**
次年度繰越金	**￥339,731**

〈キリスト教センター関連等諸行事〉（2011 年 1 月～ 2011 年 3 月）

１月	６日	新年賀会（生協３階）
	８日	教育講演会主催：振袖の会（ヨハネホール）
	１２日	バイブル・ランチ
	１３日	チャペル見学（堺市立宮園小学校）
	１７日	キリスト教学会研究会（講師：野田正彰氏）
	１８日	信夫ゼミ　卒業前祝い
	１９日	バイブル・ランチ
	２１日	大阪ハーフマラソン選手結団式ユニフォーム祝福・授与式
	２４日	秋学期終業感謝礼拝
		２０１０年度海外派遣留学生壮行礼拝
	２８日	大学同窓会新年互礼会（なんば・スイスホテル南海大阪）
	２９日	交換留学生修了記念式典
	３０日	大阪ハーフマラソン参加者懇親会（マーガレット館）
２月	３日	国際ワークキャンプ実行委員会
		キリスト教センター運営委員会
	７日	冬期日本語プログラム始業礼拝
	１４日	２０１０年度秋学期学生表彰式
		チャペル見学（和泉市立幸小学校）
	１６日	キリスト教センター新旧運営委員会
	１８日	チャペル見学（和泉市立北松尾小学校）
	１９日	結婚式
	２０日	アメリカンフットボール部２０１０年度感謝・激励礼拝・総会
	２５日	冬期日本語プログラム修了礼拝
３月	６日	結婚式
	９日	キリスト教センター運営委員会
	１０日	宗教活動協議会
	１４日	大阪 YMCA 研修会
	１７日	卒業記念礼拝
		学部成績優秀者表彰式典
		聖歌隊卒業者派遣礼拝
	２４日	スポーツ推薦入学者激励会
	３１日	教職員退職者記念礼拝

BIBLE　LUNCH のお誘い

学期間中の毎週火曜日、お昼休み（12：40 ～ 13：00）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。どうぞ、友人を誘ってご参加ください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲物もあります！

† 聖公会とは †

私たち桃山学院大学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。教派としては日本聖公会に所属しています。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数 7 千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約 350 の教会、約 5 万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っております。

私たちの姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。私たちの大学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しております。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第 40 号ができあがり、ご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。このチャペル・ニュースを通して、新入生の方々のみならず在校生、教職員の方々にもチャペルへの興味を持っていただければと願っております。

（チャプレン　司祭　ヤコブ　松平　功）

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース　第 40 号
2011 年 3 月発行
発行人
編集人　松平　功
発行所　桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）
〒594-1198　大阪府和泉市まなび野 1 番 1 号
TEL　0725-54-3131　FAX　0725-54-3210

桃山学院の「キリスト教精神」

「自由と愛の精神」

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはイエスの弟子アンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもっていきることです。使徒パウロが書いています。「あなた方は、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」（ガラテヤの信徒の手紙５章13節）

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけでなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想をめざしてチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）

〒594-1198　大阪府和泉市まなび野１番１号
TEL 0725-54-3131
FAX 0725-54-3210